【様式２】

2022 年　6 月 22　日

龍谷大学図書館長 殿

所属・職名　法学部・教授
氏名　　玄守道

2019 年度　大型図書　研究成果（経過）報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

購入資料名　ドイツ刑法学論文叢書	採択年度　２０１９年度

１．研究の概要について

大型図書を活用しての研究としては、現在、故意の本質及び過失との区別基準に関する研究（以下のA及びD-1）、性犯罪に関する研究（B）、責任の本質に関する研究（C）を行っている。故意に関する研究はこれまでの申請者の個人研究としてその成果を著書として公表した。性犯罪に関する研究は、犯罪学研究センターの指定プロジェクトとして研究を行い、その成果を公表の予定である。責任の本質に関する研究は、矯正保護研究センターにおける研究プロジェクト（団藤プロジェクト）における研究としてその成果の一部を公表した。

２．購入資料の活用状況（活用予定を含む）について記入してください。

A. 著書における活用

①Ziegert, U., Vorsatz, Schuld und Vorverschulden. 1987 227 S.
②Kargl, W.Handlung und Ordnung im Strafrecht. Grundlagen einer kognitiven Handlungs- und Straftheorie.1991 Tab.; IX, 674 S.
③Wittmann, Christian, Wissenszurechnung im Strafrecht 2006 186 S.
③Warneke, Nikolai, Die Bestimmtheit des Beteiligungsvorsatzes 2007 188 S.
④Hantschel, Ulrike, Untereuevorsatz 2010 340 S.
⑤Lederer, Jenny, Hemmschwellen im Strafrecht 2011 Tab., Abb.;432 S.

B. 性犯罪研究における活用

①Bezjak, Garonne,Grundlagen und Probleme des Straftatbestandes des sexuellen Missbrauchs von Kindern gemaess Paragr. 176 StGB 2015 357 S
②Kempe, Astrid,Lueckenhaftigkeit und Reform des deutschen Sexualstrafrechts vor dem Hintergrund der Istanbul-Konvention 2018 337 S.

C. 責任論論文での活用

Ruske, Alexander, Ohne Schuld und Suehne 2011 366 S.

D. 活用予定

D－１　ドイツ、ハレでのシンポジウム報告

①Bachmann, J.,Vorsatz und Rechtsirrtum im Allgemeinen Strafrecht und im Steuer strafrecht.
1993 221 S.

②Endrulat, B.Der ″Umgekehrte Rechtsirrtum″: Untauglicher Versuch oder Wahndelikt?1994 308 S.

③Siekmann, Hanno, Das Unrechtsbewusstsein der DDR- ″Mauerschuetzen″ 2005 IV, 222 S.

Papathanasiou,

④Konstantina,Irrtum ueber normative Tatbestandsmerkmale 2014 320 S.

⑤Schmidt-Kluegmann,Matthias,Das Bewusstsein der Fremdexistenz als Voraussetzung fuer ein Unrechtsbewusstsein. Ein strafrechtlich-rehctsphilosophische Untersuchung.1975 92 S.

D－２　書評における活用

①Brammsen, Joerg, Die Entstehungsvoraussetzungen der Garantenpflichten. 1986 478 S.

②Gruenewald, Anette, Zivilrechtlich begruendete Garantenpflichten im Strafrecht? 2001 160 S.

３．研究発表状況（予定を含む）について記入してください。

【図書】

１．玄守道『刑法における未必の故意』（法律文化社、２０２１年）

２　福島至編著『団藤重光研究』（日本評論社、２０２０年）133頁以下

【雑誌】

性犯罪に関する研究につき、「季刊刑事弁護」において今年度中に公表予定

【学会発表】

2023年　ドイツハレ大学での日独シンポにおいて、D-１につき、発表予定

☆資料購入後、**1年以内に研究経過報告書**を提出し、また、**３年以内に研究成果報告書**を提出してください。加えて著書または学術雑誌等により**研究成果の公表または学会発表**をしてください。

☆公表の際には、参考文献として刊行物に明記してください。